

【年頭所感】

令和三年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

関係省庁、関連団体、会員の皆さまには、日頃より当工業会の活動に多大なるご支援、ご尽力をいただき、心より御礼申し上げます。年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの影響で、すべての活動が停滞し、社会全体が混乱した、あつという間の一年でした。

今年には全世界でワクチン接種が開始されて一日も早く新型コロナウイルス感染が収束し、なによりも楽しみにしている東京五輪が無事に開催されることを願っています。また、日常生活ではマスクの着用、三密の回避、ソーシャルディスタンス、テレワーク、ステイホームなど新たな生活スタイルを徹底化し、国民全体が新型コロナ禍に打ち勝つ必要があります。

その渦中、新型コロナ感染対策と同様に、地球にとって大変重要な問題、異常気象の原因である「地球温暖化などの気候変動防止対策」も待ったなしで取り組んで行かなければなりません。

日本政府は2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラル」脱炭素社会の実現を宣言し、法制化も検討されています。

車両については、純ガソリン車の販売禁止を国が2030年半ばをめぐり、東京都は国の発表より5年前倒しでおこなう方針を示しました。

また、エネルギー政策については、温室効果ガスの排出量が多い「非効率石炭火力発電のフェードアウト」の指針が発表されました。これは、大規模売電事業者だけでなく、自家発電設備を有している鉄鋼、化学、製紙、セメントなどの事業者にも同様なことが求められています。今後私たちのRPFの納入先である石炭混焼自家発電施設では、石炭の使用量を減らすため、省エネ法で定められている副生物としてRPFの使用量を増し、発電効率を高める取り組みがなされると考えられます。

また、新たな発電施設として、バイオマス発電などの石炭火力発電施設以外を検討する動きが増え、石炭と比較してCO₂排出量が少ないRPFに関する問い合わせが増えてきております。私たちはそれらの社会的要望に答え、安定的で品質の良いRPFの供給に努め、その体制をより一層強固なものにしてまいります。



そして、RPFの原料である廃プラスチックなどについては、バーゼル法の省令改正により、本年1月1日からリサイクルに適さない汚れた廃プラスチックの輸出入が規制対象に追加されます。それと同時に中国では、廃プラスチックを含む固形廃棄物の輸入が完全禁止となります。これらにより使用済みプラスチックの国内での適正なリサイクルがより一層求められることとなります。私たちは、ISO化（国際規格化）を通じてSRF (Solid recovered fuel) のひとつとしてRPFの世界的なエネルギー源としての利用価値を高めます。

「プラスチック資源循環戦略会議」にて、リデュースの徹底、効果的・効率的で持続可能なリサイクル、再生素材やバイオプラスチック、代替素材の利用促進、家庭系、事業系のプラスチック類の一括回収などの指針が示されています。プラスチック資源の円滑な回収・リサイクルの拡大と高度化が求められています。

私たちは、これから利用促進される植物由来や生分解性のプラスチックをRPFの原料とした場合の、燃料としての位置づけや、LCAの観点から見たGHG排出量の検証を行い、その低減を図り、低炭素社会に貢献できる商品づくりに努めてまいります。

今年は、委員会メンバーのご協力により、三年前から取り組んでまいりました、外国人技能実習制度への「RPF製造職種」が省令改定により追加される予定です。これにより、海外からの実習生を受け入れることができ、技能実習により習得した技術を活用することにより、実習生の母国でプラスチック資源のリサイクルや新たなエネルギー源の確保に貢献できます。私たち工業会は、新たに海外事業支援WGを組織し、会員企業の海外展開の一助となるよう活動してまいります。

私たちは、誰もが予測できなかった新型コロナウイルス感染拡大により、新しい社会システムを構築しつつあります。

地球環境も同様に、気候変動を防止する活動を、すぐに起こしていかなければ、地球の未来はないと思います。

私たち工業会は、「SDGs」を推進し、政府が掲げた、「2050年カーボンニュートラル」脱炭素社会の構築に向け、廃棄物のさまざまな再資源化を通じ「チャレンジ・ゼロ」に貢献いたします。

本年も業界の発展にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様方のますますのご繁栄を祈念するとともに、新型コロナウイルスの一日も早い終息を願いまして、新年のご挨拶といたします。

令和三年元旦

一般社団法人 日本RPF工業会
会長 長田 和志

次に各委員会委員長から新年のご挨拶

《技術品質委員会》

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

昨年はコロナ禍で思うような活動が出来ませんでした。その様な状況下、御池鐵工所様（広島県福山市）のご厚意により施設見学会を開催しました。感染予防の為、正会員限定 30 名の小規模開催になりましたが、御池鐵工所様の最新技術やポエック様の電力を使用しない消火設備のプレゼン等充実した会になりました。改めて御礼申し上げます。

まずは本年度もコロナ禍でのスタートとなりますが、昨年を踏まえ IT を更に活用したいと考えます。各種専門家のセミナーやバーチャル施設見学、企業紹介など気軽に参加できる企画をどんどん配信していきます。また往来が可能になりましたら恒例の施設見学会も検討したいと考えます。

本年が皆様にとりまして幸多い素晴らしい年になることをご祈念申し上げます。

技術品質委員会 三輪陽通

《安全衛生委員会》

新年明けましておめでとうございます。

本年も何卒宜しく願い申し上げます。

昨年は、コロナ禍である社会情勢を鑑み、誠に遺憾ながら安全衛生委員会の主たる活動の全てを自粛致しました。

本年につきましては、感染拡大状況等を踏まえながらにはなりますが、例えばオンラインでの安全大会開催等実施したく存じております。

今年一年、会員企業各社様におかれましては、昨年に引き続き感染予防対策に配慮されながら、火災ゼロ・労災ゼロを目指した取組みを改めてお願い申し上げます。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を願いつつ、本年が会員企業各社様にとりまして素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。

本年も R P F 製造業界全体でゼロ災に取り組んで参りましょう。

安全衛生委員会 吉田 潤

《用途開発委員会》

新年明けましておめでとうございます。

本年も宜しく願い致します。

昨年は未経験のウィルス禍に翻弄され、慌ただしい一年でしたが、RPF 工業会には多くの新規問い合わせがあり、様々な規制で、十分な活動が出来ない部分がありました。市場での新規需要の強さ、勢いはしっかり感じる事が出来ました。責任と同時に、今後の課題解決の努力が必要と感じています。

一つは、再生可能エネルギーの分野での大口需要の対応のための企業連携、Network の問題です。会員相互の協力が不可欠。海外展開も同様です。

次に、新規需要の対応のためには、新規の原料調達ルートの開拓や従来の「廃プラ」の処理スキームの改革が必要です。原料調達の分野での積極的な調査、開拓が急がれます。

最後に、RPFの商談レベルでの数詞設定の充実です。GHG排出量の明確な分析結果、化石燃料と
のコスト比較等、プレゼン効果を含めて一層の競争力のあるデータを充実させたい、と考えます。
今年も用途開発委員会としては充実した情報と資料の提供を目標とさせていただきます。
いずれも会員の皆様の協力が必要になります。どうか宜しくお願い致します。

去年は「試練」の年でしたが、

今年、それを乗り越え社会全体が「自信」と「知恵」と「教訓」を得ることの出来る、
会員各社様にとっても充実した一年であることを心よりお祈りいたしております。

用途開発委員会 岡 弘

《総務広報委員会》

新年明けましておめでとうございます。

色々な意味で激動の一年でありました。去年は、私共工業会も例年と違う活動を強いられてしまい、
会員の皆さまに十分な提供が出来ない事態になってしまい大変申し訳なく思っております。

本来であれば総会や勉強会等を通じて会員同士の情報交換ができ有意義な交流がなされたはずで
すが残念なことにかなうこと出来ませんでした。この様な状況下ではありましたが、総務広報委
員会では事務局と協力しながら、RPFの啓蒙を行って来ました。自治体や企業様から脱炭素や
プラスチック資源循環を達成するための糸口を求め、数多くの問い合わせが寄せられました。お
話をする中で当工業会、会員企業様への期待を感じた次第です。

まだまだ、色々な制約の中ではありますが、会員各社様のご活躍を祈念いたします。

今年もよろしくお願い申し上げます。

総務広報委員会 田墨啓治

《海外事業支援ワーキンググループ》

新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のおよろこびを申し上げます。

去年は新型コロナウイルスの感染拡大により、全世界で大きな打撃を受けた一年でした。終息が
見えない中、医療従事者をはじめとする多くの方々が必死にウィルス撲滅に向け奮闘されている
にも関わらず多くの方がお亡くなりになってしまいました。心よりお悔やみ申し上げます。

さてそんな暗い状況下ではございますが、工業会におきましては明るいニュースも
ありました。ついに外国人技能実習制度にRPF製造が職種認定されます。これにより海外事業
支援ワーキンググループが発足されました。ワーキンググループでは将来現地での製造、利用を
推し進めるべくRPFを輸出し現地政府、関係者の皆様に正しく理解して頂くことから始めよう
と致しました。現地製造、現地利用が可能になれば環境保全の課題解決にも繋がっていきます。
脱石炭、脱CO₂の流れの中で温暖化防止にも寄与できます。先進国の技術、ノウハウを途上国へ
伝承し、世界中が幸せで豊かな環境を創り出せる一助になれば幸いです。

新年が皆様にとって実り多き年であることを心よりお祈り申し上げます。

海外事業支援グループ 加山順一郎

《トピックス》

外国人技能実習制度RPF製造職種追加に関する速報

一昨年（令和2年）の社員総会で、皆様のご承認決議を得て始めました「RPF製造」職種追加申請作業は、主管省庁である厚生労働省の最終書類検査が終わり、12月7日付で申請書類を提出いたしました。令和3年1月8日に省令改定が公付されることが決まりました。この省令改定により「RPF製造」職種として外国人技能実習生の受け入れが可能となります。

概要をご紹介します。

1. 職種名：RPF製造、作業名：RPF製造
2. 技能実習期間は最長5年間（1号技能実習（1年）、2号技能実習（2年）、3号技能実習（2年））
3. 評価試験実施機関：一般社団法人日本RPF工業会
4. 実習生受け入れ要件（下記のすべての要件を満たしている必要があります）
 - JIS規格認証を受けているか、300トン／月以上の生産能力を有する（許可上処理能力）
 - 安全管理者又は安全衛生推進者を選任している
 - 安全衛生委員会を設置している
 - 日本RPF工業会が定めるひな型に準じた安全衛生規定を制定している

詳細事項につきましては、省令改定の公示後に書面で配布する予定です。（事務局）

最後になりますが昨年は私共を取り巻く事業環境が大きく変わり始めました。しっかりと情報を集めて、皆様に提供できるように努力して参ります。今年もよろしく願いいたします。